

ベース物も下濫りの商状で太丸は寧ろ一段と硬化して居ると云はれて居る。

角、平鋼。角は釘付けで動かず、平は此軟勢の間にあつて異彩を放ち好調のまゝ推移して居る。

型鋼。等山の腐れは不變。目先も軟弱と見られ至つて不人気である。不本山は品薄の爲其儘小耽りとして居る、溝、工の概観は保合であるが溝の  $\frac{3}{8} \times 3\frac{1}{2} \times 12$  が大阪大口需要の爲買はれて今は品切れの状態と云はれ、之に反し工形の  $0.28 \times 4 \times 8$  が當所第二大形工場で製作することになつた爲引受數量が多くなつて目立つて下押しを見せた。

鋼板。1'6 は小耽りとして居るが 3'2 以上は弱保合を續けて居る。

黒薄鋼板。今年ほど恵まれぬ事は稀であらう。散々雨に祟られた上南支の排日に禍され、其内に不需求期は來ると云ふ有様で製品の荷動きは益々鈍く爲に 91 錢を割る噂さえある程故原板も一向不冴またも 1 錢擲分の引き弛みとなつた模様で目先も望を繋ぐべき何等の材料も見出せない様である。

線材。輸入に左右される線材は面白い程輸入數量の多寡を如實に相場の上に現はして居る、即ち 10 月輸入の横濱の 3,000 噸は東京の耽りを、神戸の 14,000 噸は大阪の値崩れを映して居る。

### 大 阪 市 況

丸鋼。細丸は豫期した輸入よりも先にまさか今頃とは思はなかつた爲替の硬化によつて第一回の小混亂を演じ、急落と賣行不振の爲市場は惰氣満々とし利喰急ぎに軟化を助長して居る。

角、平、鋼。角は變りなきも、平は東京の硬化を移し、 $\frac{1}{4}$ ,  $\frac{3}{8}$  厚の 2 $\frac{1}{2}$  以下の物は品薄も手傳つて續騰を告げて居る。型鋼等邊は在荷漸増に連れ利喰物現はれ反落を呈せるも安値には買氣潜在せる處より案ずれば或程度の低落を見たる後は恢復も早かるべしと見て居る筋もある。溝、工は大なる變化はなきも大型は尙高値を持續して居る。

鋼板。2'3 以下は追々と輸入品に壓迫せられ下押し氣味で厚板も一路軟勢を辿つて居る模様である。

線材。9 月の神戸輸入約 14,000 噸は、消費力より見て約 4,000 噸の過剩で之れが爲崩落となり 30 日には 95 6 圓と云はれて居る。

### 正 誤

前旬報(第73號)中下の通り訂正す

(イ) 東京大阪市中相場の中、鋼板  $1'6^m/m \times 3' \times 6'$  の 10'27 は 12'93 に訂正。

(ロ) 三港輸入鋼材寸法別總計表の中合計 61,801 は 61,831 に訂正。